

作品講評（審査委員 稲垣無得先生）



今年は去年に比べて約200点増の885点の応募がありました。私は日ごろ書道をやっていますので、大きい部屋の壁に皆さんの作品885点すべてを学年別に30点ずつ貼っていき、全部審査するのに一週間ぐらいかけ、全体的に見ていってから、もう一度50点ほどに絞り、その中からもう一度上位に入るべき作品かどうかを見極める作業を繰り返しました。最終的に入選作品中、上位入賞を決めるのに特に時間がかかりました。入賞できなかった人には申し訳ないが、ここにおられる皆さんは、入賞者中特に優秀でした。三賞を決めるのには、私自身が納得するまでとことん見直しました。審査の基本は小中学校の教科書に準じたものを選びました。トップと次の方との差はほとんどありません。○作品を書いて、名前も最後までしっかり書いてありバランスの良いもの。力強く書けているもの。○行書などでは、ふわっとやわらかい線の出ているもの。○練習量、その人らしい個性も大切。

文字は元々手で書いたもの、今後も手書き文字の大事さを知って、自信をもって人生を送って下さい。ご父兄の方へ、今日は思い切り褒めてあげてください。おめでとうございます。

～久し振りに出張講座を体験して（片田小学校）～

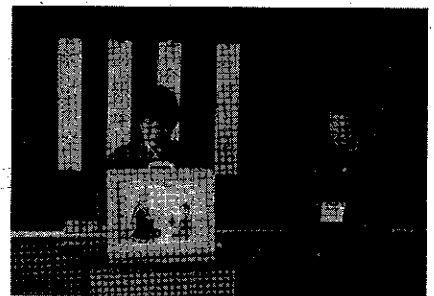
馬場 幸子

谷川士清の会が、小学校へ士清さんのお話をしに出張講座に行き始めたのは、設立1年目（平成11年）でした。

津市内の人でも士清を「しせい」としか読めない人が多いのに驚き、まずは子供たちに知ってもらおうと思ったからです。毎年10校から15校の出張依頼が、津市が広域合併するまで続きました。2人一組を原則として、10人ほどの講師はそれぞれ工夫を凝らし、伝えるべきことを認識しあって取り組んできました。ところが合併して逆に減ってしまいました。子どもたちが学習したり、体験したりすることが多くなったのでしょうか。出張講座の内容もDVDや、紙芝居を利用するなど変化してきました。

今年度の依頼は安東小学校と片田小学校の2校で、1月16日（火）片田小学校へ奥田さんと私が出かけました。2年前につくった自作の紙芝居を使い、士清さんの一生や著書の『日本書紀通証』『和訓栞』を説明を加えて上演しましたら、熱心に目を輝かせて聞いてくれました。ところがDVDになった途端、横を向いたりおしゃべりしたりし始めたのに驚きました。メディア慣れしている証拠でしょうか。

最後に、士清さんのした大事なこと3つを言って下さいの問いかけに、黒板に貼った数枚の紙片を見ながらですが、『日本書紀通証』『和語通音』『和訓栞』と大きな声で一斉に答えてくれたことで、二人は満足して帰路につきました。



～谷川神社奉賛会と谷川士清の会 ジョイントツアーに参加して～

尾市 宇三郎

秋の神宮を巡り、美し国の美味を堪能する、と題して、11月19日～20日の二日間、伊勢神宮と周辺の神社を巡りました。士清の会からは私と池村代表、佐野さん谷口さんの4名です。奉賛会からは、山本会長さん始め7名。併せて11名で、外宮・内宮の参拝です。軽妙なタッチで語られる伊勢観光ガイドの西田さんには感心させられました。榊は、神と人間界を分ける木であり、鳥居に付けられているのはその為とか、宇治橋の鳥居に掛けられていないのは、明治までは宇治橋の先にも民家や商店があったからだとか、成る程そうかと納得。

お昼は、おはらい町の「とうふや」で、これでもかと言うほどボリュームのある豆腐料理を満喫。日帰りの谷口さん佐野さんを除き私と池村代表は、バスで皆様より先に相模の志摩ビーチホテルへ。皆様良い人ばかりでした。好天のせい、翌朝めずらしく富士山がぼっかりホテルの窓から見え、また景色も最高。

夜は、現職の若き美男子の祐宜さん（国魂神社と谷川神社を兼任の方）も加わり、大いに盛り上がりました。朝一番で、近所の神明神社にお参りしました。この神社は俗称「石神さん」と言われ、女性の願いを一つだけ叶えてくれるという。彼氏が欲しい、結婚したい、子どもを授かりたいとか。何故か本日は男ばかり、11名で。

入会させていただき、初めて奉賛会という人達の存在を知り、この旅行に参加させていただきましたが、ジョイントツアーとある限り、士清の会もこの次は会の企画で、もう少し多くの参加者がいてもいいのでは？と思った次第。

